

1. ペットボトルでの水の保管に関する回答

水は生命を維持するうえで、なくてはならないものです。災害が起こると、2、3日後には水道は復旧しなくても、給水車などで必要最低限の水の供給は行われます。

ですからそれまでの水は自宅で備えておくことが大切です。一人当たり一日3リットルとされています。これは飲食の最低限の量です。1週間分は家族の人数分備蓄しておきましょう。

2. 南海トラフ地震の起こる時期

これについては、はっきり分かりません。ただ、近い将来必ず起こります。それが10年後なのか、20年後なのかは今の科学技術では分からない、というのが本当のところ。ただ、室戸岬の過去の地震での隆起量から、2033年ころがXデイというデータもあります。したがって、10年以内に起こることも十分あるという考えで、今からしっかりと備えをして頂ければと思います。

3. ダムの効果に関しては大きな誤解があります。

ダムからの放流は、ダムへ流入する水量以上の放流はしません。一般にダムがないと洪水の調整ができませんので、ダムが無いとある場合に比べて大きな被害が生じます。ダムの放流によって大きな被害が起こった、というのは全くマスコミの理解不足、勉強不足から起こっています。一方で、もっとダムの管理者(通常県)からの分かりやすい説明も必要ですね。

4. 菊川断層の地震などに関して

菊川断層の地震に関しては県が詳細な調査を行い、あと1900年くらいは動かないだろうとの調査結果があります。その時の調査委員会の委員長を私が務めました。この時はトレンチ調査はじめ、考える最善の調査方法を使っています。

8月8日に「南海トラフ地震臨時情報」が出されましたが、2.で述べたように南海トラフの巨大地震は着実に近づいています。

それと、安芸灘・伊予灘の地震(マグニチュード7クラス)もいつ起こってもおかしくない状況です。備えをしっかりとしましょう。

5. 軽量鉄骨プレハブ住宅の耐震性

基本的に軽量鉄骨プレハブ住宅の耐震性は高いと言えます。私の家も軽量鉄骨プレハブ住宅です。その際注意しているのが基礎です。べた基礎か布基礎で起訴が鉄筋コンクリートでしっかりしていて、柱にきちんと結合されているかどうかという点が重要です。

もう一点屋根が軽いことです。屋根が重いと地震には弱くなります。

6. 響灘に面した津波の水位

下関漁港と同じと考えていいです。

7. 今後 10 年間（2033 年まで）に南海地震が発生する確率は何%程度か？

これははっきりと数値でいうことはできません。ただ言えることは着実にその日が近づいている、ということです。できる事から備えをしましょう。昨日よりは今日、今日よりは明日というように Step by Step で。

8. 地震の予知に関して

地震の直前予知は私は可能と思っています。そのためには従来の地球物理だけではなく、電離層の異常など、違う分野の研究者との協力が不可欠と思っています。実際、大きな地震のおこる前の小さな地震による電離層の異常から直前予測が可能であるとの研究成果も出ています。あとはこれをどのように実装するかという問題があります。この件に関しては微力ながら実現に向けて働こうと思っています。

9. 能登半島地震時に防災無線が使えなかったのは

無線が使えるにはアンテナやそれを設置しているタワーが必要です。さらには電源も必要です。これらが被害を受けると無線と言えども通信が出来なくなります。

10. 土砂災害や地すべりの危険地域について

現在の土砂災害のハザードマップによる「イエローゾーン」（土砂災害警戒区域）、「レッドゾーン」（土砂災害特別警戒区域）は地形だけから決まっています。土質は考慮されていません。中国地方は真砂土が多いですが、真砂土は雨に弱いとされています。

自宅や勤務先などが「イエローゾーン」や「レッドゾーン」に入っている場合は十便注意しましょう。もちろん地質や木たくさん生えている、ということも重要な情報になります。竹藪は根が表層に広がっていますので、斜面では危険です。

1 1. 本はありませんが、ホームページや YOUTUBE はあります。

是非ご覧いただき、お知り合いにも紹介頂けると幸いです。以下にお示しします

 自然災害とその備え、BCP、HCP については、DMA (Disaster Management Associates) の
ホームページ <https://dma-fmiura.com> もご覧ください

自由研究社 三浦房紀  YouTube チャンネル登録を是非



DMAのサイトトップ



「三浦房紀の防災教室」

1 2. 防災士のメリット

防災士は自分の防災力アップと共に地域の防災力アップに貢献するというのが第一義
と思います。メリットとしてはすぐに利益に結びつくとは思いませんが、自分や家族の命を
守る、さらには知人や地域の人々の安全を確保する、という意味では大いに意義があるのでは
ないでしょうか。

1 3. 災害が起こった時、実際に起こった地域の障害者の方（在宅の方、入所の方）の支援
の状況やどう災害を乗り越えたのか？

実際には機転を働かせて利用者の方の安全を確保された例はたくさんあると思います。
例えば気仙沼市の例ですが、比較的古い木造の施設の所長さんは危機感をもって対策、避難
訓練等をされていました。一方、新しい建物の所長さんは新しい建物に安心してあまり危
機管理をされていました。結果は前者は被害者なし、後者多くの被害者が出ました。

特別なことをする必要はありません。オーソドックスな備えをして頂ければと思います。
ハザードマップの情報編などにありますので。

1 4. 日本に住むならどこが一番安全か？

山口県は第一候補ですね。

海外では、ヨーロッパやアメリカの東海岸は比較的地震や風水害も少ないです。
そこまで行かなくても山口県でしっかり防災対策をしていれば、大丈夫です。

あと、「地域づくりの話が聞けなかった」、あるいは「ダム建設は反対」というご意見が
ありましたが、地域づくりに関しては防災に関する情報を提供させて頂きましたので、これ
をベースに地域でお考え頂ければ幸いです。

またダムに関しては大きな誤解があると思います。ダムに関しては報道機関の勉強不足
が大きな原因と思っています。

2020年に熊本県の球磨川の氾濫で多くの方が命を失いました。氾濫を防ぐためにダ
ム建設の計画がありましたが、それに代わる治水事業をするということでダムの建設が中
止になりました。しかしそれに代わる治水工事はされていませんでした。

山口県内でも2005年9月の台風14号で錦帯橋が被害を受けた錦川の大水害がありまし
たが、その前に開かれた河川委員会でダムの必要性について侃々諤々(かんかんがくがく)
の議論が行われました。結果的には錦川の支流に平瀬ダムが建設されることになりました。

人命第一の観点からダムの効果には科学的根拠に基づいた冷静な判断が求められます。
群馬県の八ッ場ダムもいったん中止になりましたが、地元自治体からの強い要望で結果的
に建設されました。完成直後の台風による大雨が降り、その水量を八ッ場ダムがせき止めま
した。造っていなければ関東では大変な水害が起きていました。

確かにダムの建設はその流域に住んでおられる方々の生活、環境への大きな負担は避け
られません。したがって、ダムの建設は人命を守る最後の手段として、感情に走らず、科学
的な客観データに基づいて判断されるべきものと思います。

以上、ご質問やご意見に関する回答です。

よろしく願いいたします。